

ごみをへらすために、人々はどのようにくふうをしているのでしょうか。

⑤ ごみをへらす

クリーンセンターの人の話

令和元(2019)年度に市内から集めて処理したごみや資源物は、約28000 tです。これは、1人が1日あたり約1kgのごみを出していることとなります。このごみを処理するため、年間約11億円のお金がかかっています。これらのごみを安全に処理するため、平日はクリーンセンターで24時間休みなくごみをもやし続けています。

平成17(2005)年からは、ごみの量は年々少なくなってきています。しかし、ごみの種類がふえたことや、資源物をリサイクルする量がふえたため、処理にかかるお金はあまりへっていません。かぎりある資源を活用するため、住民のみなさんにも協力していただいて、もっとごみをへらし、再利用していくことができるように取り組んでいかななくてはなりません。



<スーパーマーケットでの取組>

市内のスーパーマーケットでは、入口のところにさまざまな資源物を回収する箱が置かれています。



ごみの量がへってきているのはどうしてだろう。



スーパーマーケットの人の話

わたしたちの店は、入口すぐのところに牛乳パックやトレーなどの資源物を回収する箱を置いています。お客さんが家から持ってきた資源物を入れていきます。買い物のついでにリサイクルできるので、出す日を気にせずリサイクルできます。

また、令和2(2020)年7月からレジぶくろが有料化されました。マイバッグを利用することで、レジぶくろの使用量を少なくしてごみをへらし、環境への配慮につながっています。



<リユース(Reuse)の取組>

市内には、いらなくなった服や電気製品、本などを買い取り、それらを売っているお店(リユースショップ)があります。

リユースショップの人の話

わたしたちリユースショップは、お客さんがいらなくなったものを買取り、必要な人に売る仕事をしています。いらないものでも、まだ使えるものはたくさんあります。すててしまえばただのごみですが、必要な人に使ってもらえばごみになりません。その、いらない人とほしい人の間をつなぐのがわたしたちのお店の役目です。

また、新品よりも安いので、おとくです。ごみをへらし、再利用を進めることで、資源の節約にもつながります。



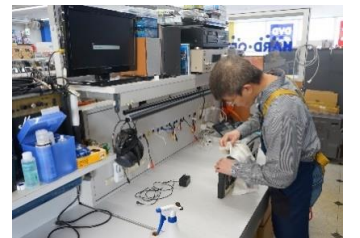
ごみをへらし、資源物や不用品をもう一度利用できるようにするため、地域の人はどんな取組をしているのでしょうか。



再生紙使用



再生紙から作られたトイレットペーパー



電気製品のリユースショップ



家庭用品のリユースショップ

ごみをへらすために、地域で行っていることを調べてみよう。



自分たちにもできることはないかな。

